

2026 年 9 月 15 日
日本船主協会 企画部広報室

海運と船員の重要性を学校教育の場で
～東京都多摩市の小学校にて出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

今般、9月9日（水）に、日本船長協会・東京海洋大学海事普及会と協力し、東京都多摩市にある帝京大学小学校の6年生と保護者を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。同校での出前授業は2021年より実施しており、今回で6回目となります。

出前授業は大きく3つのパートに分け、当協会と日本船長協会からの海運全般・船・船員の紹介に続き、船員が使用するロープを用いたロープワーク、そして船長と学生へのインタビューを実施しました。

当協会からの説明では、資源の乏しい島国である日本は船や飛行機を使って外国から多くのものを輸入していることを紹介しました。その中で、海上輸送が貿易量の99.5%を担っていることを伝え、緊張した様子で授業を受けていた児童たちからも驚きの声が上がりました。続いて、日本船長協会の小尾船長はさまざまな種類の船について解説しました。1隻で運べる量について、原油タンカーなら日本で使用する半日分、小麦を運ぶばら積み船なら日本の総人口に対し1人につきコッペパン4個分等、具体的な輸送量の例を交えながら、海運の重要性について分かりやすく説明しました。また、船員の仕事についても、航海士と機関士の役割や船上での生活スケジュールを紹介しました。児童たちは、海運が私たちの暮らしを支える重要な産業であることへの理解を深めていました。



<海運・船・船員についての授業の様子>

さらに、小尾船長は船員の仕事で実際に活用されているロープワークを紹介し、児童たちは体験用の柔らかいロープを使って、エイトノット（8の字結び）とボーラインノット（もやい結び）に挑戦しました。難しい箇所では、海事普及会の学生たちが児童たちに寄り添い、丁寧に教えてくれました。授業後には全員が「ロープを持って帰りたい!」と言ってきて、ロープワークを楽しんだ様子でした。



<ロープワークの様子>

最後に船長と船員を目指して学んでいる学生たちに、インタビューを行い、船員を目指した理由や仕事のやりがい、大学で学んでいることを話してもらいました。船長からは仕事のやりがいとして、お客様から預かった荷物を安全に届けられたときの達成感等



<インタビューの様子>

を挙げました。学生からは、航海実習について紹介があり、1か月間船上で共同生活を送るため、仲間との協調性やコミュニケーションが大切なことや、実習中はスマートフォンの使用が制限されるため、学生同士でトランプや会話を楽しむ機会が多く、互いの理解を深めながら強い一体感が育まれるとの話がありました。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上